

2008年9月・10月

## 人間歯科学研究会報

人間歯科学研究会

〒567-0883 茨木市大手町 7-26

FAX 072-626-6519

E-mail [yoshihara@gold.ocn.ne.jp](mailto:yoshihara@gold.ocn.ne.jp)

---

### 夏の思い出

2008年の夏は38度を越える地区もあり、甲子園の球児たちの熱血プレーに手に汗にぎる日が多かった。

歯科医院では2007年の夏に比して、口内炎や口角炎を伴う熱中症に類する症例が少なかった。昨年の学習効果によるものだろうか（7月中、大阪市は昨年の4倍、奈良では死亡も出た）。

一方、厚生労働省による保険制度や、年金、介護保険の不都合は、異常な報告が続くばかりで、一向に学習されている気配がない。保健のための保険が高齢者の首を絞めて、生活苦はますます厳しく広まりを増している。医師不足の病院では救急医療が追いつかず、妊産婦は出産の場所を探すのも一苦労だという。内科通院の患者でさえも、毎日どころか月1回の受診もままならない状況になっている。自殺者は増える傾向を示しており、鉄道自殺では1事故に対して約15万人以上に影響が及ぶ。

厚生労働省に学習効果が現れるまでには何年かかるのだろうか。

医者や介護者が足りないという理由で地方の病院が閉院に追いやられている。ところが、残ったスタッフたちの受け入れるところがないとのこと。数学より難しい現実がある。

## 医療の質の低下は本当か

医師の絶対的な不足により、質の低下が起きているという。はたして増やせば質が向上するのだろうか？

臨床は経験医学に視点を向けるが、研究では実験医学を重視する。研究成果がよくても、人間に対しての実験までには時間がかかるのが通説である。

最新医療の最先端は、思いもかけずスピードが速い。実験が進めば、質の低下は一変するとさえいわれている。

21世紀へ突入してまもない2001年3月、東大グループが炭素分子で「細胞膜」の球を作った。遺伝子を細胞に送り込む運び屋として使えるという。5年の研究期間は長かったようで短い。京大チームが皮膚からから万能細胞を作ることに成功した。この成功により組織や臓器を補う再生医療への利用の第一歩となった。iPS細胞（誘導多能性幹細胞）と名付けられ、ES細胞（胚性幹細胞）のように受精卵を壊すことがないという。

2007年には、万能細胞は日米国際競争に突入した。体細胞から作成することに成功し、再生医療へ広がりを示した。更に、乳歯の幹細胞を作って家族の骨や皮膚を治療することに名古屋大学が取り組み、再生医療の実用化に道筋をつけたと評価された。

2008年になると急速に進展し、神経や皮膚を作る外胚葉の誘導因子をつき止めた。7月には体細胞に3~4個の遺伝子を導入して、iPS細胞を2個の遺伝子を作ることに独マックスプランク研究所が成功したことを報告した。

夏休み中の8月には、骨髄にある幹細胞から、骨や軟骨になる「間葉系幹細胞」を取り出し、人工骨に導入するという「ハイブリッド人工骨」がすでに応用されていることを発表した。その他の研究報告が1週間毎に発表されるなど、もはやクローン羊「ドリー」が突然変異で生じたものではなく、

ES 細胞や iSP 細胞によるという証明から、誰もが納得し信じざるを得ない時代となった。

吾ら歯科医と関連のある研究で、抜歯した「親知らず」から iPS 細胞を作ることに産業技術総合研究所が成功した。生きた皮膚細胞や組織を取り保存するのは難しいが、歯ならば多くの細胞源をもっている上に保存しやすい。歯の万能細胞バンクができるかもしれない。簡単に抜歯して、ポイできない時代が現実化しはじめている。



*Tee break...*

「水は天からもらい水～♪」という歌詩があるが、命の水にもなり、死の水（毒）にもなる。

子どもが突然吐いたり、下痢をする急性胃腸炎で脱水症状を起こすと、医師の診断により点滴をするのが一般的だが、程度によっては「経口補水療法」と称してスポーツ飲料よりも高い水も出はじめた。ナトリウム濃度と糖分濃度が売りだ。

運動時、水のがぶ飲みは血中塩分が下がり、呼吸困難になり危険な状態になることがある。スポーツ飲料だからといって安心はできない。

最悪なのは「バイオシーパルス」という会社が「波動水」を飲むと「病気や障害が治る」と嘘をつき、家庭用電気機器を高額で売るとい事件があった。

水におぼれないように注意が必要!!

さて、高野山の麓の「ゆの里」の「神秘の水」や「月のしずく」は、安心と安全をどこまでまもれるか・・・人間歯科学研究会会員の監視に負うところは大きい。